

つながる

平成24年 2月16日 No.10

十日町市教育委員会学校教育課

「文化の違い」という壁



小中一貫教育推進係
嘱託指導主事 平野久美

1月11日（水）新潟日報の「先生をつぶやき」欄に、小学校教員を退職後、ボランティアで中学1年生の学習指導をしている方の投稿が掲載されていました。「在職中に小中連携事業などで、小学校での指導が中学校に入ってから重要であることを理解していたつもりであったが、自分が中学校という現場に入ってみて改めてその思いを強くしている。」という内容でした。そして、小学校教員に願うこととして、「児童にはとにかく、読解力、漢字力、作文力、そして、小数と分数の四則演算の計算力を確実に付けさせること。」とし、こうした力は『小学校卒業認定試験』といった位置付けにしても良いくらいであると述べておられます。さらに続きます。保護者に望むこととして、「適切な子離れと児童の自立心と忍耐力を培ってもらうこと。」を挙げ、子どもの中学入学後の「幼さ」は目に余り、入学後の指導の支障になっている現状を訴えています。学校でも、家庭でも、これらのことを遅くとも小学4年生ごろから意識して行うことの重要性を自責の念を込めて伝えている記事でした。

思えば明治19年（1886年）に小学校令と中学校令が別々に公布されて以来、変遷を重ねながら、小学校と中学校は120年以上もそれぞれの独自の文化を築いてきたという歴史があるわけです。先の記事のとおり、相互理解の促進がなかなか思うようにいけない現状があっても、不思議なことではないでしょう。

小中一貫教育を推進するに当たっても、取組当初は、多かれ少なかれこの壁に突き当たることと思います。このことを当然のことと受け止め、急がず怠らず、かかわりを深める中で策を練りたいものです。

十日町市中学校区訪問に3回目からは小中一貫教育推進係のメンバーも随行しています。そこから嬉しい姿が見えてきます。その1つに、モデル中学校区では、4月のスタート当初と比べ、小中学校職員の相互理解が大きく進んだことが報告されたことです。職員だけではありません。ある中学校の校長先生は、小学校で「子どもたちに気持ちのいい挨拶をされた」ことに加え、中学校の校長先生だと認識して挨拶されたことに小中一貫教育推進の取組の成果の一端を感じたと話しておられました。4月からの取組の中で、この「文化の違い」という壁を力強く乗り越えようとしている姿に、有難さ、嬉しさを感じます。

「十日町雪まつり」が明日から始まります。平成18年以来の豪雪といわれる困難の壁を乗り越えての開催です。今年で第63回。半世紀以上にわたり、困難を克服した足跡が十日町には残っています。



モデル中学校区で試行を始め、10 か月余。保護者の方々は、その取組をどうご覧になっているのでしょうか。今回はモデル中学校区の保護者の声をお聞きしました。

下条小・中学校保護者	松代小学校保護者
<p>小中一貫教育の取組は、それぞれの地域に合った形で進めるべきだと思います。3校以上の学校が絡む場合は打ち合わせや会議の調整も大変なので、小一小をまず進めた上で中学校とも絡んでほしいです。先生方が苦しうに段取りしている姿は、子どもたちにも保護者にも素晴らしい取組をしているようには決して見えません。</p> <p>保護者は、なぜ小中一貫に取り組むのかを改めて確認をしなければなりません。自分の子どもを含め、地元の学校が今どんな状況なのか、全てを学校や先生任せにしているのか、親同士の連携を再確認しながら、地域全体で取り組みたいものです。早く進めることより、まずは地域に広くゆっくり浸透させることが大切だと思います。</p> <p>日々のご指導について、市教育委員会や先生方には心より感謝申し上げます。</p>	<p>松代中学校区では、小中一貫教育のモデル校として、地域でも早々に説明会が開催されました。また、これと同時期に、松代小学校の建て替えと小学校の統合等、松代中学校区の小学校の今後についての検討が行われました。</p> <p>当初教育委員会からは、建て替えについては小中一貫教育の実施と併せて、現中学校を改修し小中学生が同居する、いわば「併設型」的な作りも1つの案として提案されました。建設立地案を3小学校PTAで意見交換してほしいと要請され、その答えは「校舎は別に、現松代小学校地内での建て替え」と纏められました。</p> <p>教職員方のソフト面の活動は十分に研究され、中学校乗り入れ授業等、一貫教育に向けて効果のある様子ですが、どのような校舎にしていくかについては、地域で十分な検討が必要と感じました。</p>
貝野小学校保護者	上野小学校保護者
<p>中里地区小中一貫教育の「子育て講演会」から、子どもの成長には寝ることが大切であることを学びました。講演のお話では、寝ることで肉体を作ったり頭を整理したりするほかに、気持ちを落ち着かせるセロトニンという精神安定ホルモンが分泌されることが医学的に証明されているとのことでした。「寝る子は育つ」は、理にかなった深い意味が隠されていることを知りました。幼児期では生活習慣や生活リズムの確立、小学校期では賢い脳の成長、そして中学校期では人として大切な「自制心」が最も育つとのことでした。早寝早起きは子どもにとって大変重要であることがわかりました。</p> <p>これからの子育てに生かしていきたいと思っています。</p>	<p>モデル中学校区の指定を受け、まずは保護者が現状を把握することで小中一貫教育への関心や意識が高まりました。取組としては、6月に千手・上野・橘の6年生による「連合修学旅行・なかよし集会」で中学校生活を共にする仲間との交流を深めました。12月には、3校による中学校体験入学が行われ、授業や部活動の見学、体験授業、中学生全員と「手つなぎ鬼」で交流するなど中身の濃い時間を過ごしました。子どもたちからは、「楽しそうだ、良かった。」という感想が聞かれました。</p> <p>これらの活動が中1ギャップの解消等へとつながるよう期待するとともに、保護者も多方面と連携しながらサポートしていくことが大切だと思います。</p>



モデル中学校区3月の活動予定



日時 <内容>	会 場	見 どころ
6日(火) <新入生一日体験入学> 8:20~17:00	下条中学校	<ul style="list-style-type: none">小学6年生が、朝から中学校に登校し、中学校の時間帯で下校まで1日を過ごし、中学校での授業、清掃、給食、部活動を体験します。
7日(水) <推進会議> 14:00~15:00	下条小学校	<ul style="list-style-type: none">今年度の最後の3回目は、以下の議題で実施します。<ul style="list-style-type: none">○3学期の事業内容の成果○来年度の方向について○各機関からの説明○意見交換
21日(水) <合同職員会議> 15:00~	下条小学校	<ul style="list-style-type: none">来年度の小中一貫教育の大綱及び小中一貫教育にかかわる年間行事予定について確認します。学力向上にかかわる合同教科部会報告、及び9年間を見通した教科領域別系統表について検討します。
中 旬 <出前授業>	千手小学校 上野小学校 橘小学校	<ul style="list-style-type: none">川西中学校の職員が中学校区の小学校に出かけて、6学年の授業を行います。 日時や教科については未定です。参観を希望される方は、学校に直接お問い合わせください。